「制作と思考」第５回展 ＜構想から完成へ＞報告

１月25日(火)－30日(日)　広島県立美術館・県民ギャラリー

作者の「手の内」見る楽しみ

～第５回展の報告に代えて～

広島芸術学会主催の「芸術と思考」展は，各回ごとに特定のテーマを掲げて作品を募集・開催してきた。第１回（'96）「10年の軌跡」，第２回（'98）「極大と極小」，第３回（'00）「境界と交流」，第４回（'03）「眼と素材」。そして今回の第５回展では「構想から完成へ」のテーマのもとに，去る１月25日（火）から同月30日（日）までの６日間，広島県立美術館県民ギャラリーで開催した。出品者数が36人，作品数にして約110点と，与えられたスペースに対する展示点数が適度で，たいへん鑑賞しやすい展示となった。

今回展の報告は，ここに掲載する全作品をご覧いただければ，おおよそを察せられると思うので，ここでは今回展のテーマ「構想から完成へ」に関し，いささかの私見と言い訳めいた説明を述べて報告に代えたい。

＊

ずいぶん以前のこと。私は作品収集を進めなければならないという美術館人としての使命感から，さる高名な日本画家に素描を譲ってもらえないだろうかと，お願いしたことがあった。むろん，完成した作品を理解するうえで大いに参考になるから，と考えたからである。今から思えば無謀かつ乱暴なお願いをしたものだと恐れ入るばかりだが，そのときは深く考えもせず，この軽い「お願い」が気楽に口からスルッと出てしまった。すると，画家先生の曰く「自分はまだこれから沢山描かねばならぬので，それだけは勘弁してほしい」とおっしゃる。このような身のほど知らずの大胆なお願いは，直接制作に関わらない者の大それた考えだった。素描が画家にとって極めて重要な制作の根元の一つだということを，まことに恥ずかしながら，このときあらためて深く心に刻み後悔もした。

このような経験的な事例もあって，いささか言い訳めくのだが，企画段階で「制作（構想）から完成へ」のテーマが提案されたとき，「面白いテーマですね」と言ってはみたものの，私自身にまったく躊躇がなかったわけではない。それでも「人によっては協力してもらえるだろう」との希望的観測の方が強かった。「手の内」を見せることを承知のうえで出品してもらえるのなら，それでもよいと考えた。

鑑賞者が作品を鑑賞するうえで興味深いことがある。それは，作者がどんなところから着想を得，構想を立て，試行錯誤を経て制作し作品を完成させたか，という一連の過程のことである。鑑賞者としては，作品に惹かれれば惹かれるだけ，ここの所が知りたくなる。

しかし，作者の側から言うと，一連の制作過程をこと細かに鑑賞者に説明しなければならない義務などない。当然無視してかまわない。だが，近ごろのように何から何まで上げ膳据え膳，至れり尽くせりの大衆迎合社会では，以前はあまり考えもしなかったことを要求されるので，作者の方も面倒なことになってきた。そうした「至れり尽くせり」を企画したのが今回展，ということになるのかもしれない。

今回展が期待を100パーセント満足させたか，という点になると，かならずしもそうとは言えない。しかし，作者の「手の内」が多少なりとも垣間見える展観としては，サービス精神に満ちた企画であった。ご協力いただいた出品者の方々に感謝，感謝。

＊

末筆ながら今回も展覧会の開催に際し，（財）エネルギア文化・スポーツ財団から多額の資金援助をいただいた。ここに特記して謝意を表する次第である。

（実行委員会委員長・倉橋清方）

「ジュ」

足利　敏子

「宙」

有田　悦子

「イネノエネルギー（赤）」

有冨　茉子

「祈り」

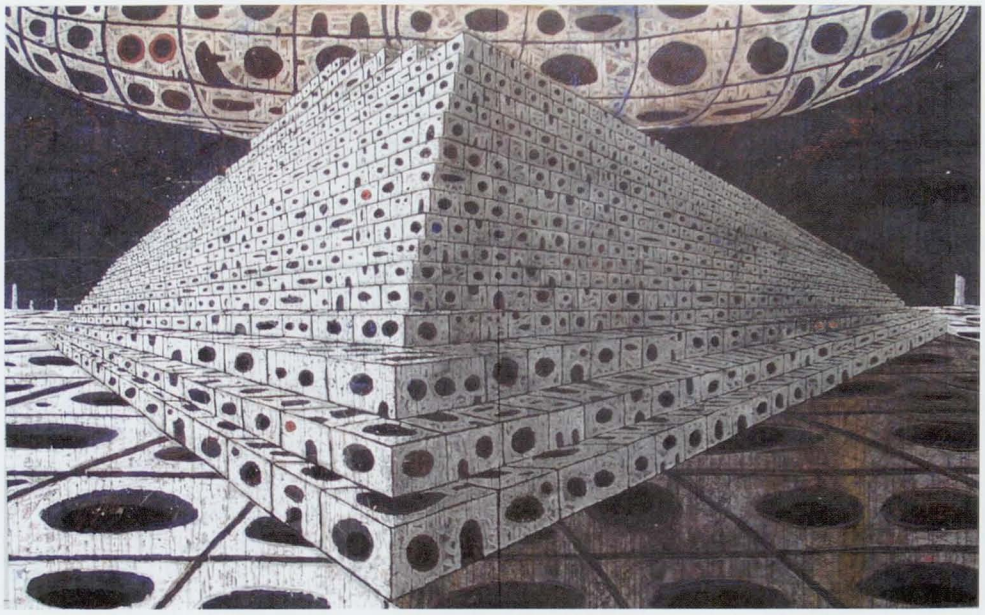
石下　早苗

「テーブルの上のエスキース」

伊東　敏光

「刻樹」

大成　大輔



「MASK」

岡田　眞理子

「軌道」

荻野　憲子

「life　line」

粕谷　周司

「まなざし」

木原　和敏

「秘宝館」

木本　一之

「２月の池のファンタジー」

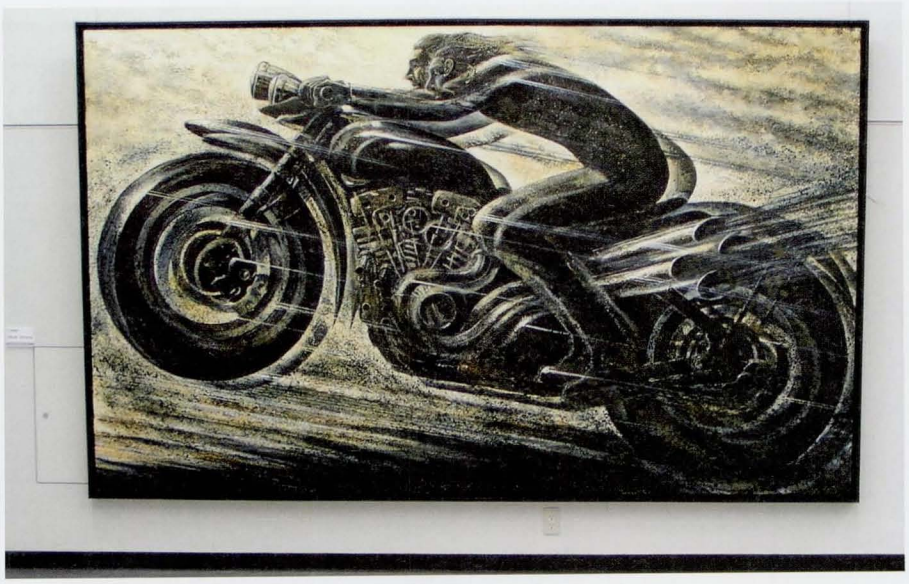
越川　道江

「混乱なく平和はもたらされました」

腰本　悦二

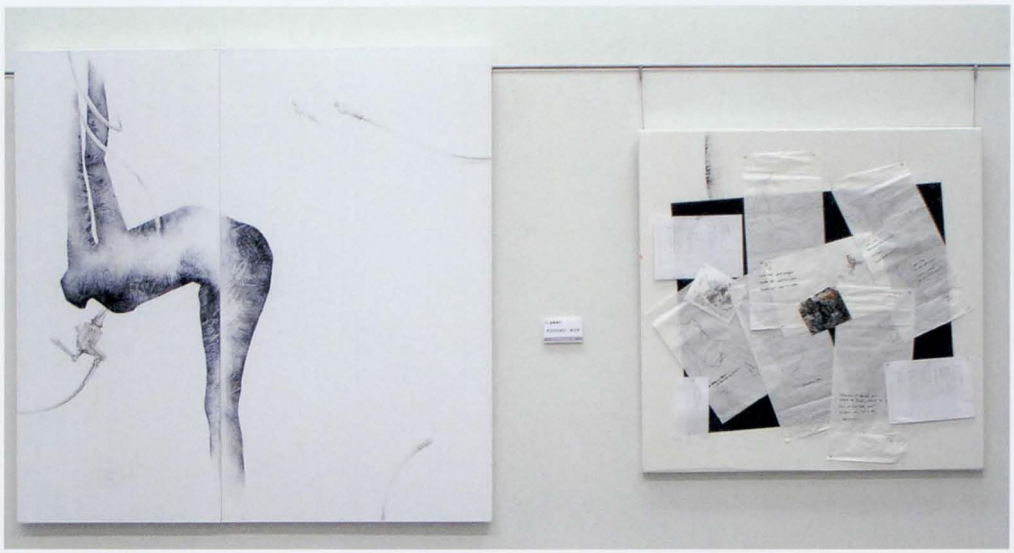
「ブラック・ファントム」

才田　博之



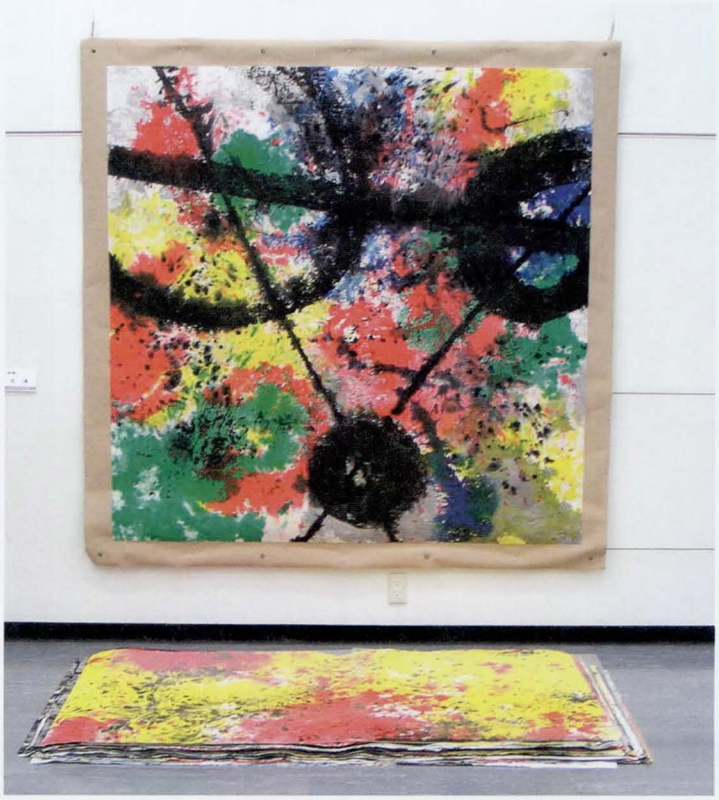
「ナンジノナハ　オンナ」

佐野　恵子



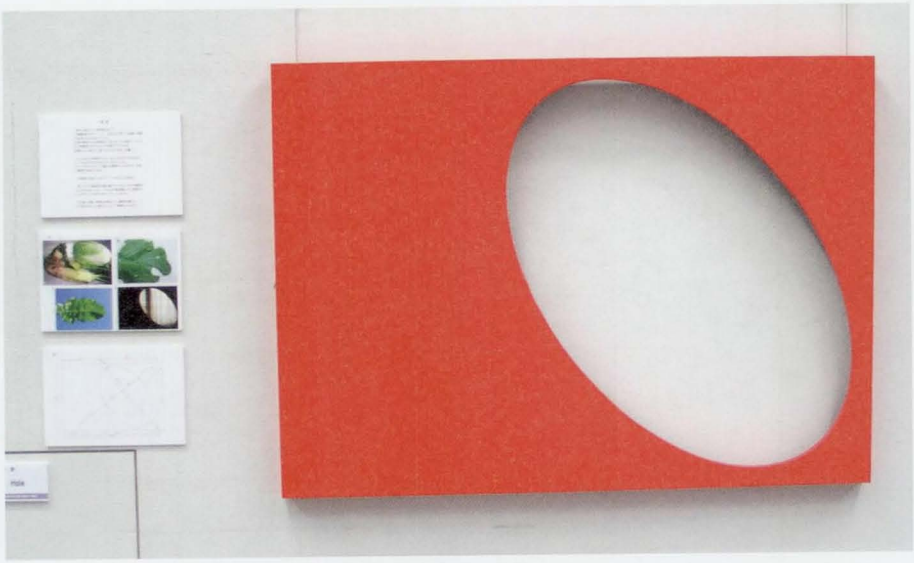
「汪溢」

椎木　剛



「Hole」

柴田　史



「金魚のいる室内」

社河内　綾子

「殖の幻界」

白井　史朗

「昇華」

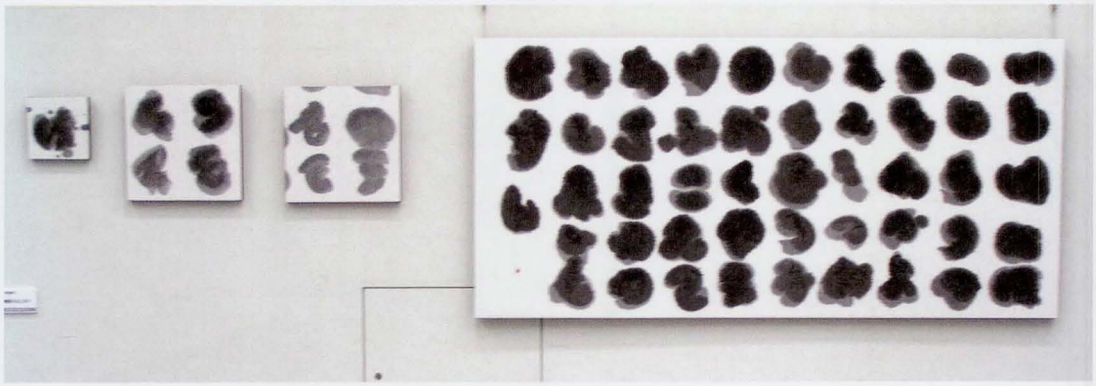
高山　博子

「生命維持中」

鳥谷部　圭子

「無限のはじまり」

夏目　暢子



「不機嫌」

新林　道子

「時間の流れ」

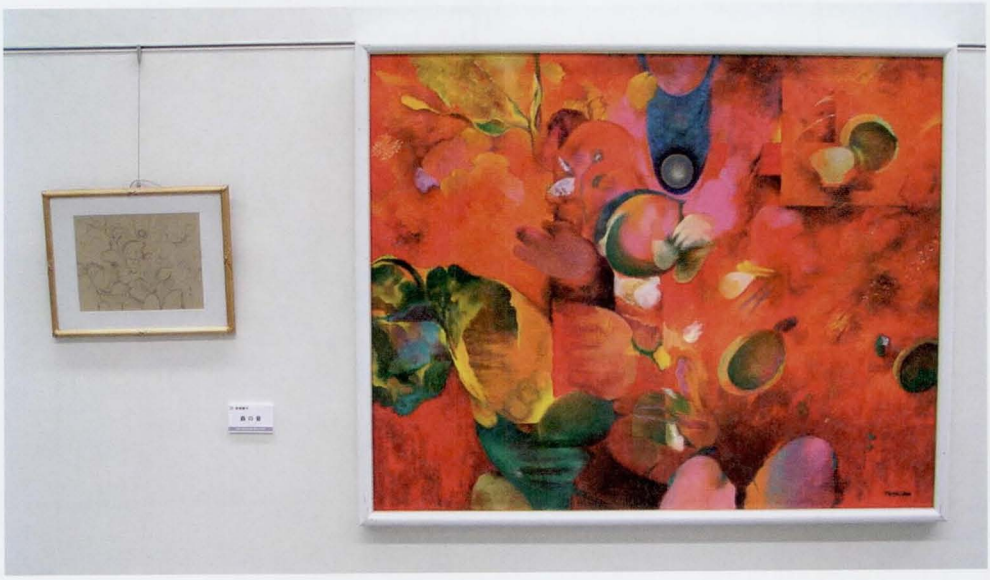
根石　裕子

「いのちの歌が聞こえる」

林田　真弓

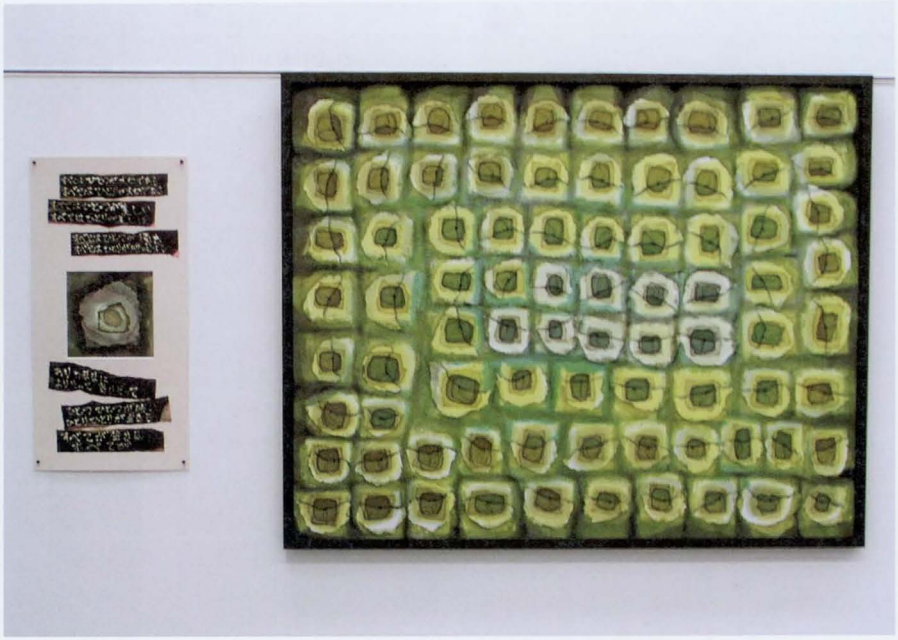
「森の音」

檜垣　敏子



「DREAMS IN THE NEST」

藤本　眞理子



「水墨画に関する一考察」

船田　奇岑

「石にもどる仏」

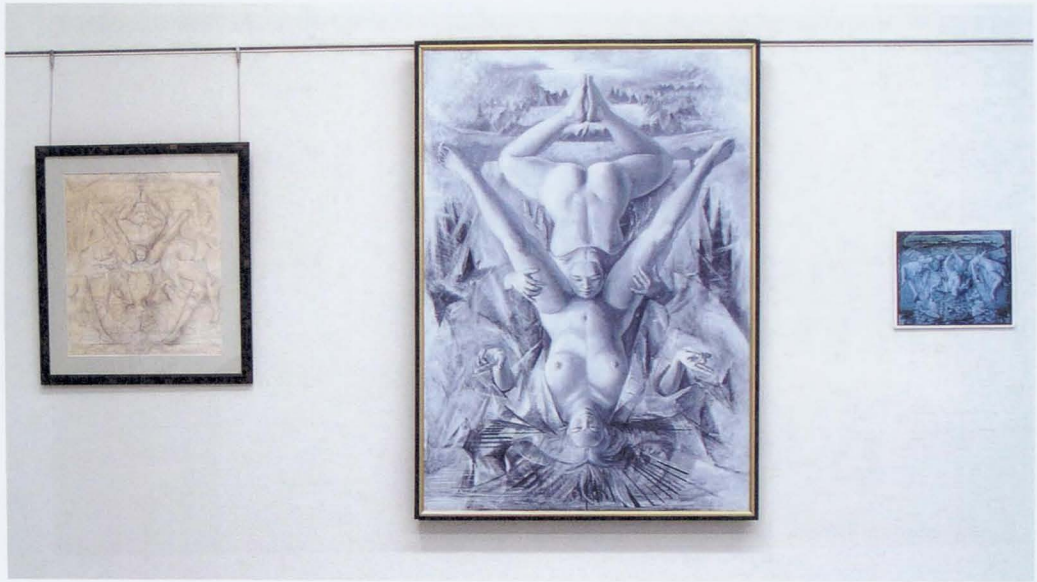
堀　研

「直径16500㎜の円周上における１対２対４の弦」

前川　義春

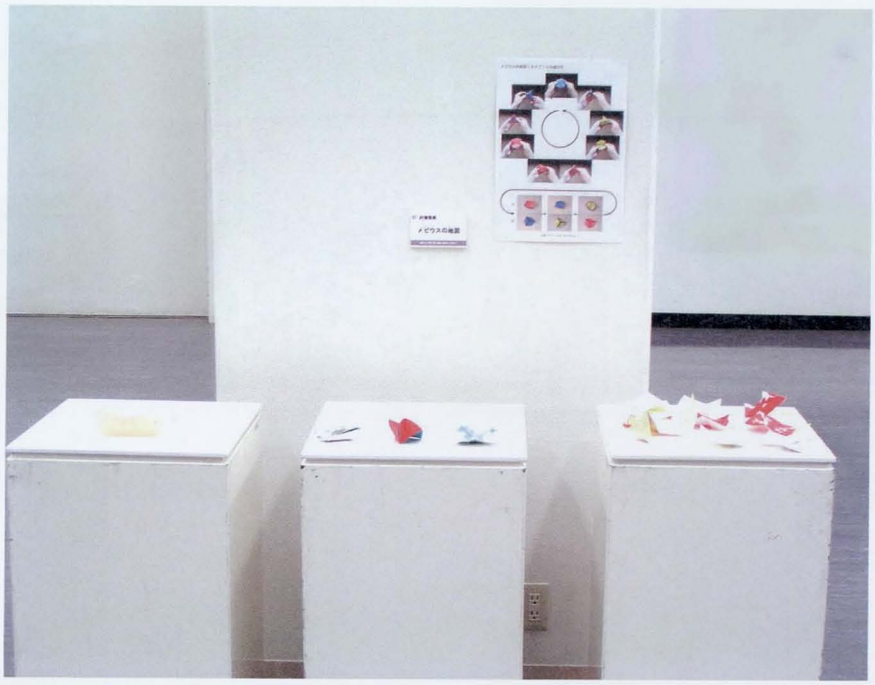
「胎地」

松本　眞



「メビウスの地図」

的場　智美



「宮島」

横川　達也

「Landscape No 1」

吉井　章

「セィント　シティーへ」

吉井　早智子

「霧滴」

力善　正和